

フォーラム「高齢化と表現を考える」

日時：2023年11月18日（土）13:30～15:30

年齢を重ねることで変化する心身や環境。それぞれに向き合いながら人生をよりよく生きるためにはどんな方法や考え方があるかを学ぶフォーラムを実施しました。「紙芝居劇むすび」のマネージャーと、「50歳からのハローシアター」の主宰者を招き、ミニ公演も交えながら議論を深めました。

まずは細見佳代さんによる「50歳からのハローシアター（以下ハローシアター）」の紹介がありました。ハローシアターは現在64歳から85歳の17名、自営業、主婦、パーキンソン病患者、退職者など様々な年齢や背景の人たちが集って活動しています。

細見さんはシニア世代の魅力について、話し方に深みや味わいがあること、体の存在感だと話されていました。例えば発声練習で、普段、人に言えないことを言ってそれをみんなで繰り返したり、笑い合ったりするなど、非現実の「お芝居」という安全な枠組みの中で過ごしてまた現実にもどる、芝居の技術にとどまらない体験をしているそうです。



細見さんのご紹介のあとで発表されたパフォーマンスのタイトルは「わたしの手」。

「自分の手をみてください。その手で毎日どんなことをしていますか？何をしているときが楽しいですか？」静かな問いかけの声でパッと場の空気が変わりパフォーマンスが始まりました。

「手」とおしてメンバーの生涯が語られはじめます。

子どもの頃の、若い頃の、中年の今の手。手で触れたもの、得たもの、手放したものが全身で、言葉で語られる芝居に会場に感動が広がります。目頭を熱くする方もちらほら。メンバーそれぞれのパーソナルな物語なのに、何かしら自分や近しい人と重なり合うものを感じたり、ハッとさせられたり。「手」が語る物語の豊かさ、深さに気付かされた圧巻のパフォーマンスでした。



続いて、紙芝居劇むすび（以下むすび）マネージャーの石橋友美さんから活動について伺いました。

むすびは2005年に結成。活動拠点の大阪市西成区釜ヶ崎は、石橋さん曰く「人生そのものを表現している人がたくさん住んでいる街」。メンバーの平均年齢は73歳。仕事が好きなたちが人前でパフォーマンスをする姿の素朴さが観る人に好評で、若い人たちも応援してくれるのだそうです。

日雇い単身労働者で、人と繋がって何かをすることの少ない人達が集まって、表現だけでなく「遠くの親戚より近くの他人」のような密度の関係性ができ、亡くなった仲間をみんなで見送るなど出会いと課題に向き合いながらこの「たまり場」ができているのだそうです。



披露された紙芝居は「文ちゃんの冥土めぐり」。

主人公の5歳の女の子、文（ぶん）ちゃんが死んでしまって、地獄で無邪気に鬼さんや閻魔さまたちと遊ぶお話。文ちゃんを演じるのは94歳の長谷さん。

なめらかでゆらぎのある唄のような文ちゃんと、優しそうな鬼たちの語り口に魅了されていると、おもむろに鬼のパンツの踊り。途中で鬼さんが台本のセリフを見失う場面もあったり、と思えば、白鳥が登場してバレリーナさながらの優雅な舞を披露したり。

物語の最後、死んで地獄に行った文ちゃんが生き返ったときに投げかけられた「生き返った文ちゃんがどうなったか、みなさん考えてみてください。」のセリフには、ハッピーエンドでも悲劇でもない、何にも帰結しない物語のあり方が提示され、それだけでいい体験ができたと感じました。





ミニ公演の後は、細見さんと石橋さんに今日の公演やそれぞれの活動についてお伺いしました。

参加者を含めた意見交換では、むすびさんの紙芝居劇に出てきた白鳥について「僕も白鳥の役をやりたい。」「白鳥さんの震えている手が素晴らしく感動した。」などなどたくさんの意見がありました。実際白鳥役をされたハルレさんは「体がだんだん動かなくなっているの、誰かにやってほしいと思っていました。僕が白鳥をやったのは他に体を動かせる人がいなかったから。家で何回も練習してこけたりもしていた。」のだそうです。

「なぜむすびは紙芝居を選んだのか、衣装はどうしているのか」という質問には、石橋さんから、元はサロンでトランプばかりしていたところ、誰かが紙芝居でもしたらと言い出して始まった。衣装はみんなで作って個々で用意しています。という答えがありました。





今回のプロジェクトでは高齢化がテーマでしたが、「高齢化」というより「生きる」というテーマを感じました。人生は「起承転結」とはいかないのだなと感じました。文ちゃんも「終わり」から物語が始まっている。細見さんも石橋さんも「私が私らしくある」「安心安全の場」を作っているというところに感銘を受けました。

登壇者：細見佳代（50歳からのハローシアター主宰）、石橋友美（紙芝居劇むすびマネージャー）

舞台発表：50歳からのハローシアター、紙芝居劇むすび

進行：岡部太郎（一般財団法人たんぼぼの家 常務理事）

参加者：32名